

【審議事項 1】

**いしかわネットを活用した肝炎患者のフォローアップ事業
(金沢大学 消化器内科 島上准教授)**

肝炎ウイルス患者フォローアップ事業へのいしかわ診療情報共有ネットワーク利用企画書

標記について提案いたします。ご検討の程、よろしくお願い申し上げます。

背景：	企画背景、事業目的、課題など
【企画背景】 石川県では、県内唯一の肝疾患診療連携拠点病院（以下、拠点病院）である金沢大学附属病院が、石川県健康福祉部健康推進課と共同で、肝炎ウイルス患者のフォローアップ事業「石川県肝炎診療連携」を平成22年度から実施してきた。本事業において拠点病院は、年1回、同連携への参加同意者に対し、肝疾患専門医療機関（以下、専門医療機関）の受診確認用「調査票」を郵送し、専門医療機関への受診勧奨を行っている（別紙1）。拠点病院は、専門医療機関から返送される調査票により受診状況を確認してきたが、その返送率は40～50%にとどまっていた。平成30年度からは、拠点病院および専門医療機関の双方にIDを有する参加同意者を対象に、いしかわ診療情報共有ネットワーク（以下、同ネットワーク）への参加同意を取得し、同ネットワークと従来の調査票を併用する運用を開始した。その結果、受診状況の把握率は約90%に達した（資料2）。令和3年度からは、拠点病院にIDを有しない参加同意者にも対象を拡大するため、モデル事業として、フォローアップ事業用の閲覧専用医療機関「金沢大学附属病院肝疾患相談センター」（以下、相談センター）を設置し、専門医療機関と相談センターとの間での情報共有を開始した。令和6年度からは、同ネットワークにより受診状況を確認できる参加同意者については、調査票および返送用の切手貼付封筒の郵送を廃止した。これにより、フォローアップ事業の経費削減と、調査票の記載にかかる専門医療機関の負担軽減を実現した。あわせて、調査票の返送では把握が困難であった患者の詳細な臨床病態を、同ネットワークを通じて把握できるようになった。 こうした成果を踏まえ、令和7年3月に改正された「石川県肝炎対策の推進に関する考え方」（資料1）では、フォローアップ事業にID-Link等のICTを活用し、患者の受診状況の正確な把握とフォローアップの効率化を図ることが明記された。 【事業目的】 上記の背景を踏まえ、先行のモデル事業を継続するとともに、フォローアップ事業における同ネットワークの活用をさらに促進することで、参加同意者の受診状況の正確な把握と、フォローアップ業務の効率化を図ることを目的とする。 【課題】 これまでの先行モデル事業では、情報共有の対象医療機関を専門医療機関に限定してきた。しかし、同連携への参加同意者の中には、専門医療機関ではなく、肝炎治療受給者証の交付申請に係る診断書を発行する医療機関（以下、指定医療機関）に定期通院している者も一定数存在する。これらの患者の受診状況を的確に把握するため、今後は情報共有の対象に指定医療機関を加えることを課題とする。	

内容：	企画概要、実施方法、運用案など
1.各専門医療機関、指定医療機関にて、当実証事業に関する掲示を行う（別紙3）。	
2. 対象の患者（石川県肝炎診療連携参加同意者、別紙4 同連携参加同意書）に対して当実証事業の内容を、口頭で丁寧に説明する。	
3. 患者から口頭で同意を得た場合、各専門医療機関、指定医療機関の電子カルテ「説明日、説明者および同意が得られた旨」を記載する。 【記載例】 いしかわ診療情報共有ネットワークを用いて、金沢大学附属病院肝疾患相談センターと診療情報等を共同診療に活用することの同意を得た。 2026/10/1 説明者名	
4. いしかわ診療情報共有ネットワーク確認書（別紙5）に必要情報を記入し、石川県肝炎診療連携事務局（金沢大学附属病院肝疾患相談センター）にFAX送付等にて紐付けを依頼する。石川県肝炎診療連携事務局は、紐付け後にFAX送付等にて対象医療機関に完了報告する。尚、対象医療機関の同意が得られた場合には、対象医療機関で紐付けを行うこともできる。その際は、紐付け後、FAX送付等にて金沢大学附属病院肝疾患相談センターに完了報告を行う。金沢大学附属病院肝疾患相談センターからの診療情報閲覧は同院医師2名（島上哲朗、堀井里和）、肝炎医療コーディネーター1名（福田雅子）、金沢大学消化器内科事務補佐員1名（木田麻里子）の3名に限定する。	
対象：	対象者（職種）、参加人数、参加機関、利用条件など
対象職種：	医師、肝炎医療コーディネーター（医師、薬剤師など、石川県が認定）
参加機関：	金沢大学附属病院及び石川県肝疾患専門医療機関（別紙6）、指定医療機関（別紙7）（共に石川県が認定）
利用条件：	情報セキュリティ研修を受講していること
効果：	期待される効果、実証事業後の展開など
これまで紙ベースの調査票で行ってきた肝炎ウイルス患者の専門・指定医療機関への受診勧奨をWEBベースで行うことでより正確に専門・指定医療機関への受診状況を確認できる。これにより、専門・指定医療機関未受診者への重点的な受診勧奨が可能になる（フォローアップ事業の効率化）。また、郵送費を中心としたフォローアップ事業に係る経費の節減、調査票を記載する専門医の業務の軽減を図ることができる。さらに診療情報共有の促進による診療支援、専門・指定医療機関との共同診療が促進され、肝炎ウイルス患者への良質な医療の提供が期待できる。	
実証期間：	令和8年7月 ～ 令和13年3月
報告形式：	「肝炎ウイルス患者フォローアップ事業へのいしかわ診療情報共有ネットワーク利用企画書に関する報告書」を年度末にいしかわ診療情報共有ネットワーク運営委員会に報告する。また何らかのセキュリティインシデントが発生した場合も運営委員会へ直ちに報告する。

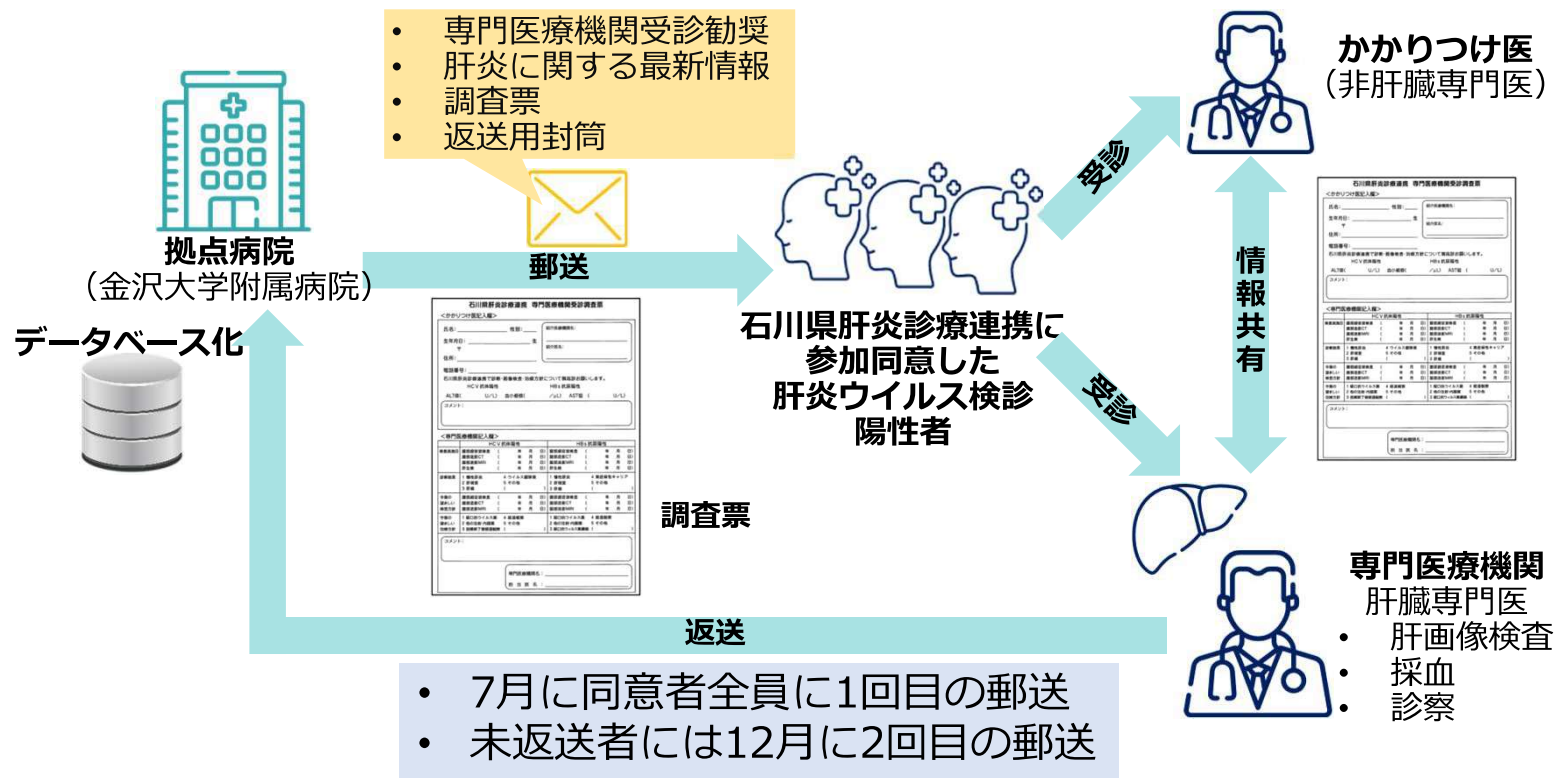
肝炎ウイルス患者フォローアップ事業への いしかわ診療情報共有ネットワーク利用

金沢大学医薬保健研究域医学系消化器内科学
島上哲朗

「石川県肝炎診療連携」の概要と現況（令和5年度末）

参加同意者 1441名（検診 1275名、検診外 166名）

（当初は、老人保健事業・健康増進事業による肝炎ウイルス検査陽性者を対象にしていたが、現在は、全ての肝炎ウイルス検査陽性者が対象）

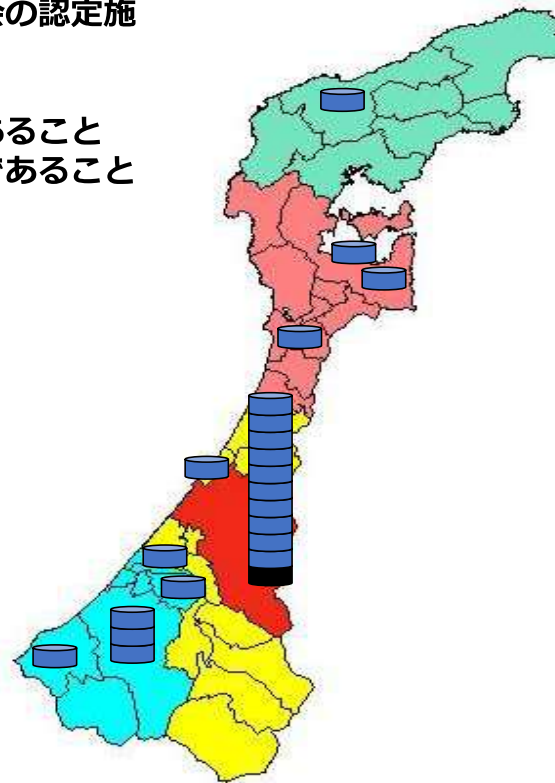


石川県における肝疾患診療連携体制

石川県肝疾患専門医療機関 認定要件

1. 日本肝臓学会又は日本消化器病学会の認定施設であること
2. CT装置を有していること
3. 肝がんに対する治療が実施可能であること
4. その他、知事が必要と認める施設であること

小松市民病院
小松ソフィア病院
芳珠記念病院
やわたメディカルセンター
加賀市医療センター



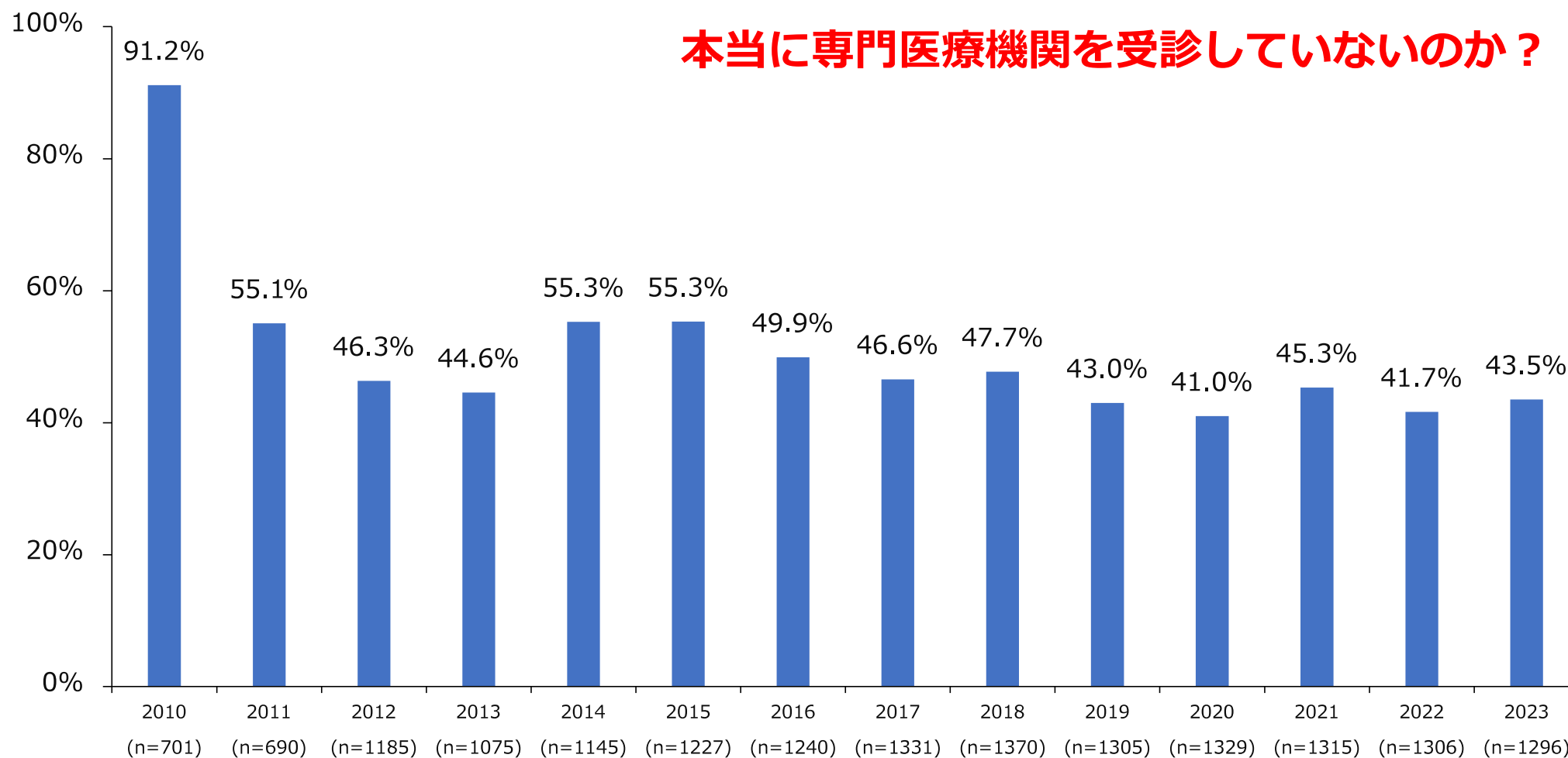
市立輪島病院

恵寿総合病院
能登総合病院
公立羽咋病院

拠点病院

金沢大学附属病院
金沢医療センター
石川県立中央病院
金沢市立病院
金沢赤十字病院
石川県済生会金沢病院
北陸病院
城北病院
浅ノ川総合病院
金沢病院
河北中央病院
公立松任石川中央病院
金沢医科大学病院

調査票の拠点病院への返送状況（専門医療機関受診率）



石川県肝炎診療連携同意者の問題点

1. 調査票の拠点病院への返送率（＝専門医療機関受診率）が、40～50%にとどまっている

- ・ 専門医療機関を受診したにもかかわらず調査票が未提出（患者が担当医に未提示、担当医が記載しないなど）が存在する

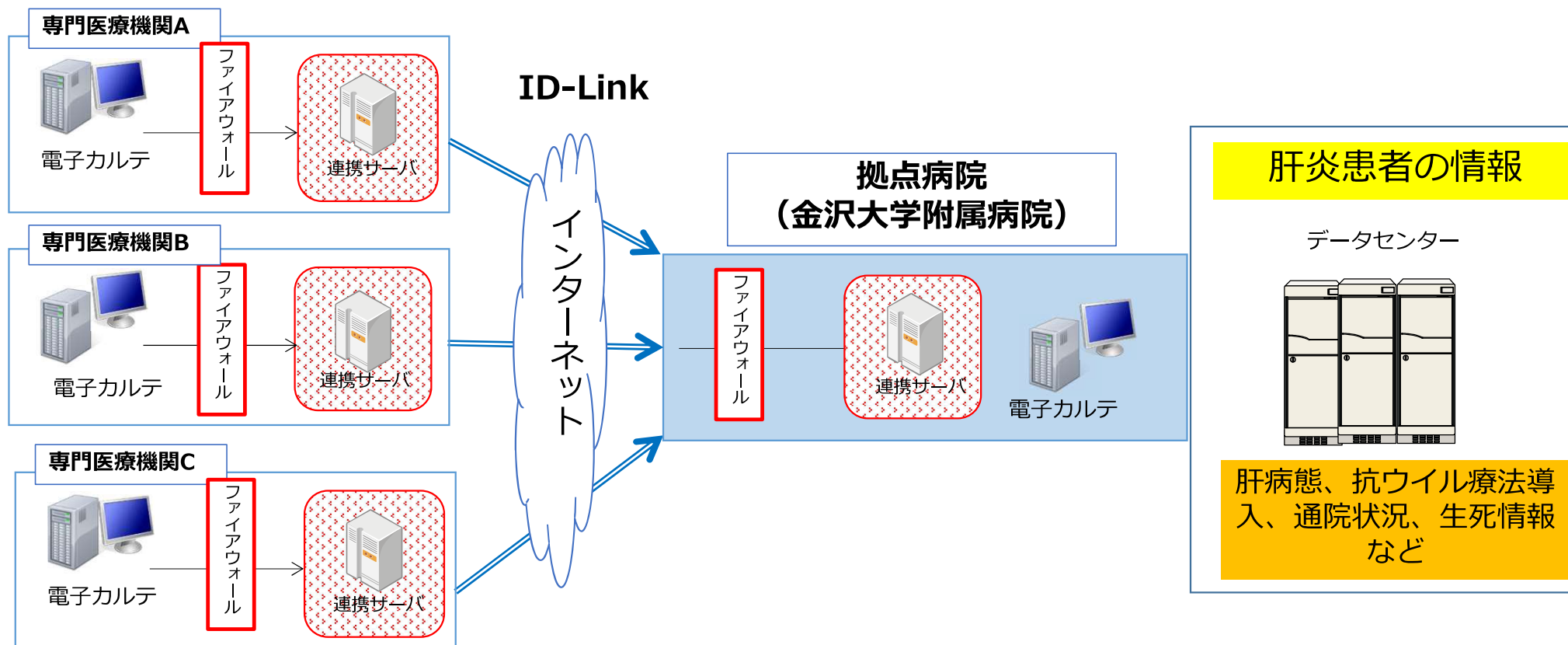
2. 調査票だけでは、専門医療機関での診療内容の確認が困難

- ・ 抗ウイルス療法の導入状況や肝病態（肝機能・肝硬変・肝がん）さらに認知症や脳梗塞、死亡などの把握が不十分



ICTを使って、拠点病院から専門医療機関の診療情報を閲覧することで、これらの問題が解決できるのではないか？

ID-Linkの肝炎診療連携への運用法



- 診療情報の紐付けには、患者同意が必要
- 紐付けしたい医療機関双方のID（受診歴）が必要

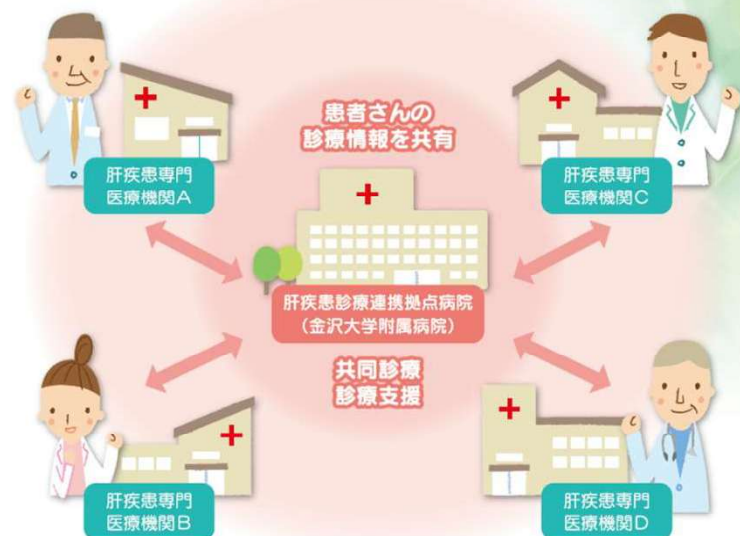
金沢大IDを有する石川県肝炎診療連携同意者

石川県肝炎診療連携同意者		1358		
金沢大学附属病院		129	金大ID保持者	金大ID保有率
金沢大学附属病院以外		1238	312	25.2%
	金沢医療センター	92	41	44.6%
	石川県立中央病院	82	17	20.7%
	金沢市立病院	26	13	50.0%
	金沢赤十字病院	66	26	39.4%
	済生会金沢病院	42	13	31.0%
	KKR北陸病院	37	13	35.1%
	浅ノ川総合病院	32	9	28.1%
	JCHO金沢病院	40	10	25.0%
	城北病院	14	5	35.7%
	公立松任石川中央病院	98	27	27.6%
	河北中央病院	20	6	30.0%
	金沢医科大学病院	94	9	9.6%
	恵寿総合病院	97	13	13.4%
	公立羽咋病院	35	8	22.9%
	市立輪島病院	47	20	42.6%
	公立宇出津総合病院	55	16	29.1%
	小松市民病院	64	11	17.2%
	小松ソフィア病院	43	11	25.6%
	芳珠記念病院	25	4	16.0%
	やわたメディカルセンター	19	6	31.6%
	肝臓専門医のいる医療機関	114	32	28.1%
	肝臓専門医以外受診／未受診	106	1	0.9%

いしかわ診療情報 共有ネットワーク

を利用した
金沢大学附属病院との**肝疾患診療連携**

いしかわ診療情報共有ネットワークを用いて
金沢大学附属病院と診療情報を共有します。



患者さんのメリット

肝疾患に関して金沢大学附属病院と共同診療を行い、金沢大学附属病院からの診療支援も受けます。また金沢大学附属病院への受診が必要な際にはスムーズに連携できます。

個人情報の保護

いしかわ診療情報ネットワークでは、患者さんの個人情報を守るために対策を講じています。

ID Linkに登録されることに関して、患者さんの費用負担はありません。

- 2018年10月末まで石川県庁、石川県医師会、専門医療機関と合意形成・運用法調整
- 2018年11月末から同意取得開始
- 2026年7月末現在、石川県肝炎診療連携同意者中**140名**で、**拠点病院－19肝疾患専門医療機関**間でID-Linkによる診療情報共有を実施済み

ID-Linkによる専門医療機関受診確認の有用性

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象者	132	135	130	128
調査票返送数	57	65	66	54
調査票返送率	43.5%	48.1%	50.7%	42.1%
調査票未返送数	74	67	64	74
ID-Link受診確認/調査票未返送者と率	62/74 (83.8%)	56/67 (83.6%)	46/64 (71.8%)	54/74 (73.0%)
肝臓・専門医未受診者数/ID-Linkで受診確認	5/62 (8.1%)	6/56 (10.7%)	6/46 (13.0%)	12/54 (22.2%)
ID-Link＋調査票による専門医療機関受診者数	119	121	112	108
ID Link＋調査票による専門医療機関受診率	90.8%	89.6%	86.1%	84.4%
実際の専門医療機関未受診者数と率	13名 9.8%	14名 10.4%	18名 13.8%	20名 (15.6%)

- ・ 4年間で一度も専門医療機関の受診確認ができなかった方：8/137（5.8%）
- ・ 一度も受診確認ができなかった方の内訳：HBV-6名、HCV-2名
- ・ 死亡者（4年間）：8名（HCV-6名、HBV-1名、共感染-1名）

ID-Linkの汎用性のある利用の促進

金沢大学附属病院（拠点病院）の受診歴がない患者（石川県肝炎診療連携参加同意者の約75%）は、ID-Linkを用いた専門医療機関との紐付けが困難。

⇒拠点病院にIDがない患者に関しても、拠点病院との診療情報共有が可能になるような対策が必要。

- 金沢大学附属病院内に、閲覧専用の仮想医療機関「**金沢大学附属病院肝疾患相談センター**」を設置。
- 「金沢大学附属病院肝疾患相談センター」と各専門医療機関の間で、ID-Linkの紐付けを行う。
- 対象は、石川県肝炎診療連携に参加同意された方のみとする。**
- 仮想医療機関による診療情報共有は、COVID-19感染者の宿泊療養施設ー専門医療機関間での実績あり。
- 石川診療情報共有ネットワーク運営協議会で審議済み。
- 2022年1月から紐付けを開始。

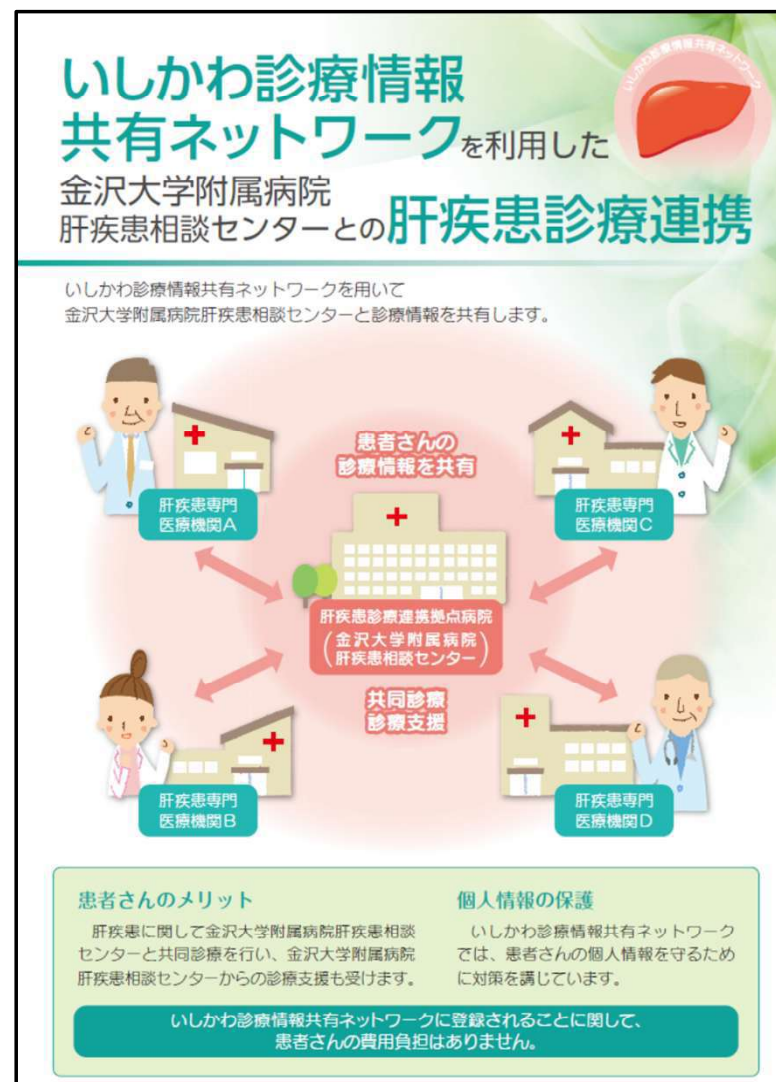


The screenshot displays the ID-Link web application interface. The header shows the ID-Link logo and the URL mykarte.com. The main content area is titled '連携患者選択' (Select Partner Patient) and includes a search bar for '患者 ID' (Patient ID). A red circle highlights the '連携登録一覧' (List of Partner Registrations) section, which lists various partner facilities. The facility '金沢大学附属病院肝疾患相談センター' (Kanazawa University Hospital Liver Disease Consultation Center) is circled in red. Below this, a table lists other partner facilities.

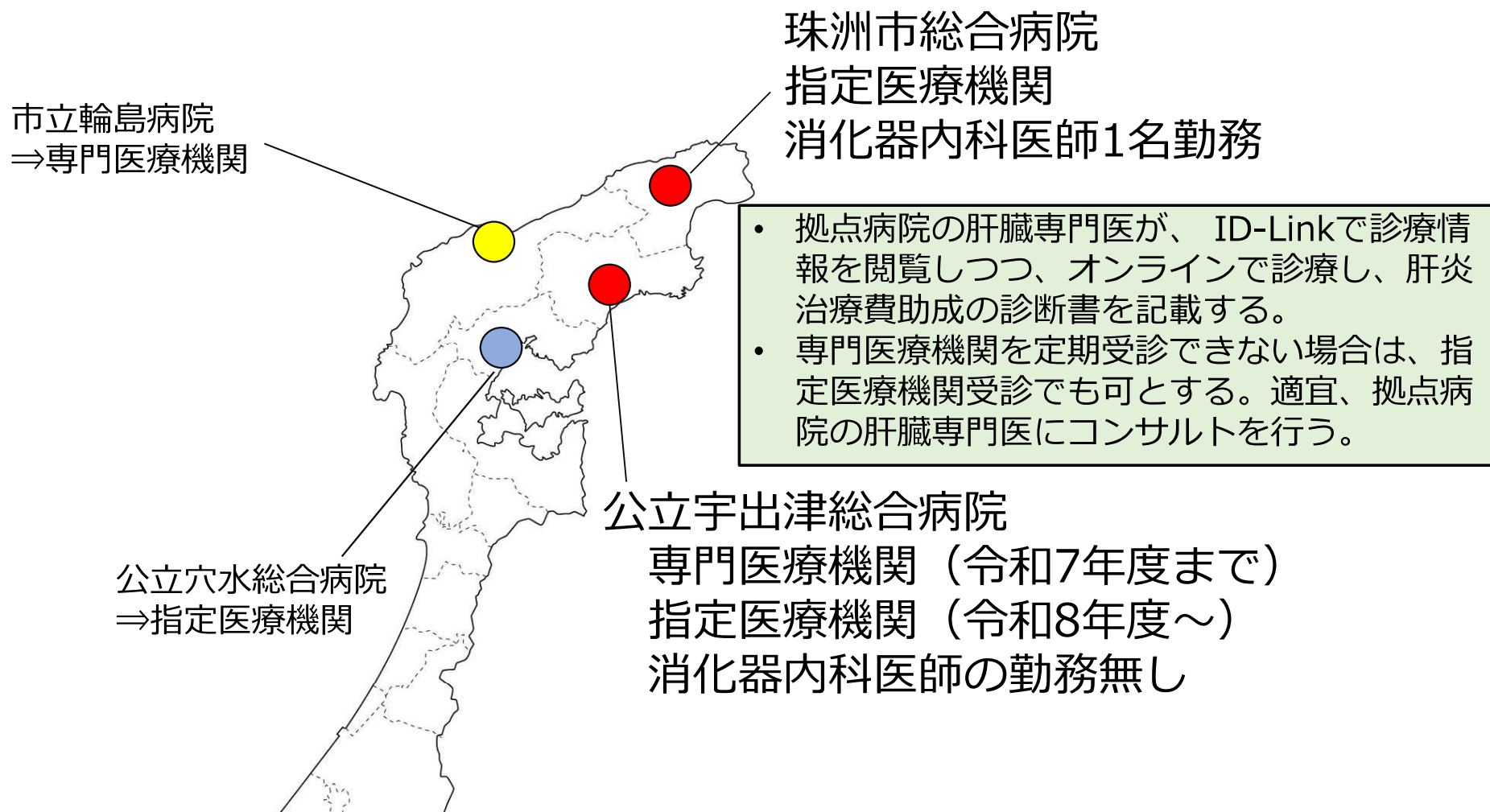
連携先施設名
国家公務員共済組合連合会 北陸病院（金沢市 泉が丘）
国民健康保険 小松市民病院（小松市 向本折町木）
医療法人社団さくら会 森田病院（小松市 園町木）
国民健康保険能美市立病院（能美市 大浜町ノ）
小松ソフィア病院（小松市 沖周辺土地区画整理事業地内 仮地番）

ID-Linkの汎用性のある利用の促進

- 金沢大学附属病院内に、閲覧専用の仮想医療機関「**金沢大学附属病院肝疾患相談センター**」を設置。
- 「金沢大学附属病院肝疾患相談センター」と各専門医療機関の間で、ID-Linkの紐付けを行う。
- 対象は、石川県肝炎診療連携に参加同意された方のみとする。**
- 仮想医療機関による診療情報共有は、COVID-19感染者の宿泊療養施設—専門医療機関間での実績あり。
- 石川診療情報共有ネットワーク運営協議会で審議済み。



ICTを用いた能登北部医療機関の診療支援（令和8年度現在）



ID-Linkを肝炎診療連携に用いるメリット

1. 正確な受診状況・病態把握、未受診者を把握する事で良質なフォローアップ事業が可能

- 死亡された方を把握することで、不要な受診勧奨を省略できる。
- 認知症や脳梗塞の合併や悪性腫瘍の合併を把握する事で、適切な受診勧奨ができる。
- 専門医療機関を受診しているにもかかわらず肝臓専門医を受診していない患者を把握し、専門医療機関にフィードバックすることで院内連携を促進できる。
- 実際の未受診者への重点的な受診勧奨ができる。

2. フォローアップ事業の効率化が可能

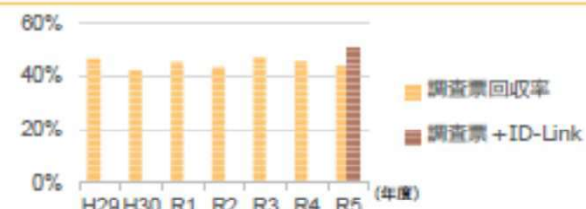
- 紙ベースからWEBベースへ移行することで、調査票記載に係る医師の負担、および調査票の郵送に係る通信費を節減できる。

→令和6年度から受診確認の方法を調査票からID-Linkへ変更

今後のフォローアップの取り組み

これまでの取組

- H22 拠点病院によるフォローアップ（肝炎診療連携）の開始
- H27 肝炎診療連携への登録を要件とした検査費用の助成開始
- R1 職域における検査陽性者も初回精密検査費用助成の対象に追加
→ 検診機関からの陽性者への案内も開始
- R2 拠点病院においてID-Linkを活用した受診状況の確認を開始 石川県独自
- R5 C型肝炎治療後のフォローアップ体制を強化 石川県独自
(医療費助成の申請時（治療開始前）における肝炎診療連携及び定期検査費用助成の案内を開始)



指標		当初値 (H29)	目標値 (R5)	現状値 (R5)
石川県肝炎診療連携	同意者数（累計）	1,591	増加	達成 (1,867)
	調査票回収率	46.6%	増加	未達成 (43.6%)
検査費用助成制度の利用	初回精密検査費用の助成件数	11	増加	未達成 (7)
	定期検査費用の助成件数	71	増加	未達成 (57)

(出典)健康推進課調べ

評価・課題

- ・調査票回収率が約5割で、半数近くが受診状況を確認できない状況。一方、ID-Linkを活用すると、調査票未回収でも多くの方が受診状況を確認できた。
- ・検査費用助成制度の利用が伸び悩んでいる。特に、C型肝炎治療後の定期検査の必要性が十分に伝わっていないと推測される。

今後の取組

【国の改正のポイント】
ICTの活用等による地域連携の強化に向けた研究等を推進する必要がある。

- ・ID-LinkなどのICTを活用することで受診状況の確認率増加とフォローアップの効率化を図る。
 - ・検査費用助成制度について、肝炎医療コーディネーター等を通じ、周知徹底を図るとともに、C型肝炎治療予定者に対しては、引き続き受給者証交付時にも案内を行う。
- ⇒ 指標：調査票回収率を「調査票とICTによる受診状況の確認率」と変更し、「C型肝炎治療後の受診状況の確認率」も新たに設定

石川県肝炎対策の推進に関する考え方（石川県、令和7年3月改正）

改正指標（個別アウトカム）

指標			現状値 (R5年度)	目標値 (R11年度)
予防	B型肝炎ワクチンの定期接種率		95.1%	増加95%以上
肝炎検査	肝炎ウイルス検査の受検者数	保健所	244	本年比累計3,360人以上増加
		委託医療機関	1,130	本年比累計3,000人以上増加
		新 市町における41歳以上検診	2,963	増加
フォローアップ	検査体制の整備	委託医療機関数	366	増加維持
	市町・保健所の実施体制	フォローアップ実施市町・保健所数	5 すべての市町・保健所	維持 すべての市町・保健所
	精密検査受診率 (連絡不達・不明除く)	B型肝炎	66.7%	増加90%以上
フォローアップ	医療機関における 受診勧奨の体制整備	C型肝炎	100%	増加90%以上
		新 手術前等の肝炎ウイルス検査実施後の 受診勧奨の体制整備率	専門医療機関等 (R4) : 100% 専門医療機関等以外 : 88% (通算率 88.6%)	専門医療機関等 : 100% 専門医療機関等以外 : 95%以上
		新 専門医療機関等 (R4) における B型・C型肝炎の未対応者数	B型 : 87 C型 : 111 (通算率 89.6%)	0人
	石川県肝炎診療連携	新 かかりつけ医等に対する 研修会の実施回数	3回 (R4)	毎年3回以上開催
		同意者数 (累計)	1,867	増加
		新規陽性者の同意取得率 (R4・R5年度)	34.6%	80%以上
		調査票回収率とICTによる受診状況の確認率	43.4% 51.0%	増加 60%以上
医療提供体制	専門医療機関	新 C型肝炎治療後の受診状況の確認率	—	60%以上
		指定医療機関数	21	維持
		指定されている二次医療圏数 二次医療圏ごとの医療機関数	4 2以上	維持 2以上
医療提供体制	専門医療機関	415人	300人600人以上	
		100%	100%	
		22カ所 すべての指定病院・専門医療機関	維持 すべての指定病院・専門医療機関	
医療提供体制	専門医療機関	4回	毎年4回以上開催	

仮想医療機関との紐付け完了患者

2025年11月 221名

その後、全専門医療機関に対象患者リストを渡して、紐付けを依頼

2026年7月 383名

※(新) ...新規追加項目、前回指標からの変更は赤字

石川県肝炎対策の推進に関する考え方（石川県、令和7年3月改正）

まとめ

- 仮想の医療機関（金沢大学附属病院肝疾患相談センター）と専門医療機関の診療情報をIDリンクで紐付けすることで、肝炎ウイルス陽性者のフォローアップ事業の効率化に成功した。
- 令和7年3月に改正された「石川県肝炎対策の推進に関する考え方」では、フォローアップ事業にIDリンクを活用し、患者の受診状況の正確な把握とフォローアップの効率化を図ることが明記された。
- 今後も仮想の医療機関のフォローアップ事業の効率化への活用を計画している。
- 今後は、紐付けする医療機関を専門医療機関に加えて肝炎治療受給者証の交付申請に係る診断書を発行する医療機関（指定医療機関）に拡充することで肝炎医療の均てん化を図りたいと考えている。